



## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月12日

上場会社名 株式会社カネカ 上場取引所 東・名  
 コード番号 4118 URL http://www.kaneka.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 角倉 護  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 IR・広報部長 (氏名) 石田 修 (TEL) 03-5574-8090  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日 配当支払開始予定日 2019年12月5日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	299,855	△2.0	12,817	△28.9	9,675	△39.3	6,046	△43.4
2019年3月期第2四半期	306,053	4.7	18,016	13.5	15,943	10.0	10,686	11.1

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 2,079百万円(△86.5%) 2019年3月期第2四半期 15,456百万円(△17.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	92.70	92.54
2019年3月期第2四半期	163.00	162.75

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	643,465	357,193	52.0
2019年3月期	659,587	360,726	51.1

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 334,602百万円 2019年3月期 336,992百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	9.00	—	55.00	—
2020年3月期	—	50.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。2019年3月期第2四半期末の1株当たり配当金につきましては、当該株式併合前の金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。

## 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	625,000	0.6	32,000	△11.2	26,000	△16.8	18,000	△19.1	275.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年3月期2Q	68,000,000株	2019年3月期	68,000,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	2,773,471株	2019年3月期	2,778,423株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年3月期2Q	65,223,202株	2019年3月期2Q	65,561,353株

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、2019年11月12日に、機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を電話にて開催する予定です。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(会計方針の変更)	P. 11
(セグメント情報等)	P. 11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

世界経済は、米中貿易摩擦の激化により、中国のみならず技術的に繋がる世界のサプライチェーンに影響が波及し、また英国EU離脱の混迷や中東における地政学的な緊張感の高まりにより、景気の減速が鮮明になりました。

このような状況のなか、当社グループの当第2四半期累計期間（2019年4月～9月）の業績は、アジア・欧州での需要の鈍化、自動車産業やエレクトロニクス産業の低迷および円高影響により、売上高は299,855百万円（前年同期比2.0%減）、営業利益は12,817百万円（前年同期比28.9%減）、経常利益は9,675百万円（前年同期比39.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は6,046百万円（前年同期比43.4%減）となりました。

上半期の減収・減益の主な要因であったMaterial SUやE & I Technology SVは下半期には潮目が変わり原料事情や為替および海外市場の需要の好転が予想されます。さらに、Health Care SUやNutrition SUも順調に拡大し、下半期は全体として昨年度並みへの回復を見込んでいます。

各セグメントの状況は次のとおりです。

#### ① Material Solutions Unit

Vinyls and Chlor-Alkaliの塩化ビニル樹脂及び塩ビ系特殊樹脂は、国内の市況は低迷しましたが、インドなど海外の需要は堅調に推移しました。また、か性ソーダは、アジア市況の低迷が続いており、本SV減速の大きな要因となりました。年明け後の市場回復を予想します。

Performance Polymersのモディファイヤーについては、地球規模に用途の底辺が広がっていることから、世界経済の低迷による需要減の影響を強く受けました。このSVの構造改革を進めるドライビングプロジェクトとして期待しているエポキシマスターバッチは、旺盛な需要に対応すべく、2020年7月稼働に向けて能力増強工事を進めています。

変成シリコンポリマーについては、販売が堅調に推移し、昨年12月に稼働したベルギーの能力増強設備が収益に貢献しました。このSVのニューフロンティアであるアジアの市場開拓に取り組んでおり、販売は拡大しています。マレーシアの新系列が利益を押し上げることを期待しています。

カネカ生分解性ポリマーPHBH®については、G20サミットや10月の安倍首相の「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」挨拶での当社生分解性ポリマーに対する期待表明などマイクロプラスチック問題のソリューションとして大いに注目され、関心がますます高まっています。セブン-イレブンにはじまりコンビニや化粧品メーカーなどでストローやレジ袋、包装材の幅広い用途に採用が進むと同時に、海外の大手ブランドホルダーとのプロジェクトが進展しています。年末には5,000tプラントが稼働し、更なる需要拡大に向けて今年度中には本格量産プラント建設を決定する見通しです。

Material Solutions Unitは大幅な減収・減益となりました。

#### ② Quality of Life Solutions Unit

Performance Fibersについては、アフリカは市場拡大が続いております。アメリカなどアフリカ以外の先進国でも高機能頭髪としてのブランド性が高く評価され、新しい需要開拓が進み収益力を牽引しています。下半期も旺盛な需要が更に続くことが予想されることから、新しい需要に応えるべく生産性の向上やデボトルネックによる増産を進めています。

Foam & Residential Techsは販売価格転嫁を進め収益が大幅に改善しました。事業プラットフォームの強化として取り組んでいる物流の効率化に向けた拠点の整備も収益改善に繋がりました。発泡ポリオレフィン、短期的には世界的な貿易摩擦による市場の混乱を受け自動車向け販売は減少しましたが、今後の軽量化ニーズの高まりの中、グローバルな需要拡大を念頭に、能力増強や新プロセス導入による事業基盤強化を進めてまいります。

PV & Energy managementについては、地球温暖化を懸念する社会のうねりの中で当社の高効率太陽電池の技術的評価や、市場の注目度が高まっており、大手ハウスメーカーを中心に販売は順調に伸びております。窓や壁が発電するユニークな太陽電池が住宅やビルのゼロエネルギー・マネジメント・システム素材として注視されており、新製品の増産体制を遅滞なく進めて需要拡大に対応してまいります。9月にはセブン-イレブンの再生可能エネルギーによる店舗運営の実証実験へ当社の高効率太陽電池を提供しました。

E & I Technologyの超耐熱ポリイミドフィルムと超高熱伝導グラファイトシートは、スマートフォン市場の減速の影響を強く受けました。社会はデジタルトランスフォーメーションによるパラダイムシフトが進み、その変化のコア素材であり今後拡大が見込まれる有機ELディスプレイや5Gスマートフォン向けポリイミドワニス・新規ピクシオ・透明ポリイミドフィルムなど、新しい市場でユニークな新製品の販売を進めていきます。

### ③ Health Care Solutions Unit

Medical Devicesについては、高機能バルーンカテーテルや消化器用カテーテルなど新製品が販売の拡大を牽引しています。国内市場、海外市場で販売が拡大しました。更に今下半期、国内外で塞栓コイル新製品の発売を予定しております。医療器事業は当社が重点志向している健康分野でのコア事業であり、今後薬剤を塗布したバルーンカテーテルや電極カテーテルに加え、資本・業務提携した米国の医療機器会社の血流測定機器など新規医療領域での積極的な事業拡大を目指してまいります。

Pharmaについては、低分子医薬は主要顧客への出荷タイミングが下半期に変更になり、当第2四半期は販売量が減少しましたが、下半期には大きな収益力回復のモメンタムになります。一方、カネカユーロジェンテック社のバイオ医薬品の販売は堅調に拡大しております。生産能力増強工事も完了し、2020年4月の本格稼働に向けて顧客と新製品開発を進めています。

### ④ Nutrition Solutions Unit

Foods & Agrisについては、大手製パン、コンビニや食品メーカーへの積極的な提案型営業が拡販をドライブし、収益を伸ばしております。また、食の多様化が進む中、スパイスのニーズが拡大しておりグループ会社カネカサンスパイス製品の新規採用が拡大しています。インドネシアでは日本の美味しいパン・菓子文化の爆発的な拡大期を迎えており、2020年5月稼働を計画している新工場建設工事を突貫で進めております。乳製品事業では、「パン好きの牛乳」、「パン好きのカフェオレ」また、8月に発売を開始した「ベルギーヨーグルト ピュアナチュラル」は積極的にプロモーションを展開し、好評裏に市場参入を進めています。乳製品の新工場建設の検討を急ぎ、酪農家と組んで健康など質の向上や循環型酪農の発展を目指します。

Supplemental Nutritionについては、アメリカでの還元型コエンザイムQ10の販売が堅調に進みました。連結子会社のスペインAB-Biotics社の乳酸菌サプリメント素材は、そのユニーク性が高く評価され、グローバルに販売が拡大しております。アメリカでの生産・販売を充実させ機能性食品のグローバル展開のスピードを上げてまいります。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期末の総資産は、売掛金の減少等により前期末に比べて16,122百万円減の643,465百万円となりました。負債は、買掛金の減少等により12,589百万円減の286,272百万円となりました。また、純資産は、為替換算調整勘定の減少等により3,533百万円減の357,193百万円となりました。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により16,160百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により20,920百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により3,312百万円の支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末残高は、31,750百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

10月にIMFは2019年世界成長率を金融危機以降で最も低い3.0%へ下方修正しました。したがって当面は世界景気減速による厳しい事業環境が続きます。

しかしながら上半期大幅な減収・減益の要因であったMaterial SUやE & I Technology SVなど当社のユニークな機能性商品群は海外を中心に需要回復が見通されるなか、Performance Fibers SVやHealth Care SU、そしてNutrition SUも順調に拡大し、原料事情や為替動向と相まって下半期の収益は昨年並みへの回復を見込んでおります。但し通期ではMaterial SUを中心として上半期の販売減・利益減の影響が残り、2019年5月14日公表の2020年3月期連結業績予想を修正いたします。

私たちカネカは化学素材の無限の可能性を引き出し、地球環境問題の解決や人々の健康と活力ある人生、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

第3四半期以降の為替レート及び原料価格については、米ドルは108円、ユーロは120円、国産ナフサ価格は40,000円/KLを想定しております。

当期の連結業績予想数値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	650,000	40,000	35,000	23,000	354.00
今回修正予想 (B)	625,000	32,000	26,000	18,000	275.98
増減額 (B-A)	△25,000	△8,000	△9,000	△5,000	
増減率 (%)	△3.8%	△20.0%	△25.7%	△21.7%	
(参考) 前期連結実績 (2019年3月期)	621,043	36,041	31,268	22,238	339.15

※上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	40,905	32,551
受取手形及び売掛金	147,993	132,738
有価証券	232	215
商品及び製品	61,609	65,286
仕掛品	9,365	9,822
原材料及び貯蔵品	41,459	42,058
その他	13,918	16,684
貸倒引当金	△1,237	△1,212
流動資産合計	314,245	298,146
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	79,815	84,173
機械装置及び運搬具（純額）	106,395	109,144
その他（純額）	65,710	65,188
有形固定資産合計	251,922	258,505
無形固定資産		
のれん	3,981	3,534
その他	9,443	9,484
無形固定資産合計	13,424	13,018
投資その他の資産		
投資有価証券	61,273	54,795
その他	18,982	19,240
貸倒引当金	△260	△240
投資その他の資産合計	79,994	73,794
固定資産合計	345,342	345,319
資産合計	659,587	643,465

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	84,797	73,418
短期借入金	67,668	73,792
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	2,864	2,442
引当金	128	11
その他	48,453	45,462
流動負債合計	213,912	195,126
固定負債		
社債	—	10,000
長期借入金	45,122	39,994
引当金	266	261
退職給付に係る負債	34,985	34,810
その他	4,574	6,079
固定負債合計	84,948	91,145
負債合計	298,861	286,272
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	32,784	32,106
利益剰余金	272,944	275,570
自己株式	△11,601	△11,581
株主資本合計	327,173	329,142
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,642	18,287
繰延ヘッジ損益	△110	△89
為替換算調整勘定	△4,008	△7,435
退職給付に係る調整累計額	△5,705	△5,302
その他の包括利益累計額合計	9,818	5,460
新株予約権	431	474
非支配株主持分	23,302	22,116
純資産合計	360,726	357,193
負債純資産合計	659,587	643,465



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	306,053	299,855
売上原価	219,774	216,103
売上総利益	86,278	83,752
販売費及び一般管理費	68,261	70,935
営業利益	18,016	12,817
営業外収益		
受取配当金	914	875
投資有価証券売却益	—	400
為替差益	157	—
持分法による投資利益	3	74
固定資産売却益	427	—
その他	434	341
営業外収益合計	1,937	1,691
営業外費用		
支払利息	999	916
固定資産除却損	1,223	904
為替差損	—	697
その他	1,789	2,315
営業外費用合計	4,011	4,833
経常利益	15,943	9,675
特別損失		
訴訟関連費用	837	617
特別損失合計	837	617
税金等調整前四半期純利益	15,105	9,058
法人税、住民税及び事業税	3,693	2,638
法人税等調整額	△96	△294
法人税等合計	3,596	2,343
四半期純利益	11,509	6,714
非支配株主に帰属する四半期純利益	823	668
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,686	6,046

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	11,509	6,714
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,623	△1,375
繰延ヘッジ損益	△7	21
為替換算調整勘定	1,664	△3,683
退職給付に係る調整額	669	405
持分法適用会社に対する持分相当額	△3	△1
その他の包括利益合計	3,946	△4,634
四半期包括利益	15,456	2,079
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,667	1,687
非支配株主に係る四半期包括利益	788	392

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	15,105	9,058
減価償却費	15,926	16,787
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1,135	447
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2	△19
受取利息及び受取配当金	△978	△940
支払利息	999	916
持分法による投資損益 (△は益)	△3	△74
固定資産処分損益 (△は益)	△99	197
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△400
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,272	14,608
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△7,208	△5,508
仕入債務の増減額 (△は減少)	822	△11,287
その他	△72	△4,400
小計	24,352	19,383
利息及び配当金の受取額	997	950
利息の支払額	△968	△918
法人税等の支払額	△4,968	△3,254
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,413	16,160
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△20,006	△23,745
有形固定資産の売却による収入	1,705	7
無形固定資産の取得による支出	△812	△1,637
投資有価証券の取得による支出	△223	△38
投資有価証券の売却による収入	0	425
投資有価証券の償還による収入	—	4,000
関係会社株式の取得による支出	△1,898	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	37
貸付けによる支出	△1,135	△840
貸付金の回収による収入	981	791
その他	△614	79
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,004	△20,920

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	7,586	3,519
長期借入れによる収入	1,799	595
長期借入金の返済による支出	△4,780	△1,690
社債の発行による収入	—	10,000
社債の償還による支出	—	△10,000
リース債務の返済による支出	△64	△164
自己株式の取得による支出	△15	△2
自己株式の売却による収入	259	0
配当金の支払額	△2,953	△3,587
非支配株主からの払込みによる収入	—	390
非支配株主への配当金の支払額	△210	△188
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△0	△2,184
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,619	△3,312
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△988	△8,360
現金及び現金同等物の期首残高	47,413	39,970
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	141
現金及び現金同等物の四半期末残高	46,425	31,750

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用している子会社は、第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、本基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の「有形固定資産」が2,264百万円増加し、流動負債の「その他」が269百万円及び固定負債の「その他」が2,090百万円増加しております。当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	124,391	78,883	23,680	78,546	305,501	551	306,053	—	306,053
セグメント間の 内部売上高又は振替高	669	12	—	13	696	533	1,229	△1,229	—
計	125,060	78,896	23,680	78,560	306,198	1,084	307,283	△1,229	306,053
セグメント利益	14,189	7,628	4,673	2,173	28,664	258	28,923	△10,906	18,016

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	28,664
「その他」の区分の利益	258
セグメント間取引消去	12
全社費用(注)	△10,943
その他の調整額	25
四半期連結損益計算書の営業利益	18,016

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	120,414	78,911	21,957	78,010	299,294	561	299,855	—	299,855
セグメント間の 内部売上高又は振替高	519	9	—	15	544	557	1,102	△1,102	—
計	120,934	78,920	21,957	78,025	299,839	1,119	300,958	△1,102	299,855
セグメント利益	10,202	7,583	4,049	2,360	24,196	286	24,483	△11,666	12,817

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	24,196
「その他」の区分の利益	286
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	△11,673
その他の調整額	6
四半期連結損益計算書の営業利益	12,817

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。